



1_水に浮かぶボールをすくう、小さなオペレーター 2_重機で丸太をつかんで、よいしょ！ 3_チェーンソーを巧みに操って伐採 4_丸太切りに挑戦。「引くときに力を入れて」 5_内子高校生のアルプホルン演奏 6_マウンテンバイクで林道を走るツアーも 7_小物入れ作りも子どもたちに大人気

林業を未来につなぐ 10周年の「ワンフォレ」で、山を満喫

林業や森林の魅力を体験できるイベント「ワンツーツリーフォレスト」（同実行委員会主催）が8月22・23の両日、ソルファオダスキーゲレンデで開催されました。10回目となる今回は、2日間で延べ1,014人が来場。林業機械での丸太積み体験、木材を使った楽器作り、木工品の販売など、木に親しめる催しが盛りだくさんです。恒例の伐採見学では、25^{ミハル}級のスギを狙った位置に倒すプロの技術を間近で見学。小島美桜さん（小学6年）＝宇和島市＝は「迫力がすごかった。普段は見られないものばかりで、来てよかった」と笑顔で話しました。

武田惇奨委員長は「『林業の日常』をテーマとして、山林・森林に親しむ機会を作りたいと思っている。地元と林業関係者の協力もあり長年続けられた。一つの区切りを迎えたが今後も挑戦を続け、誰かが山の仕事に興味を持つ、その入り口になればうれしい」と語りました。



腹話術人形の「ぐりちゃん」と武知さん

絵本をきっかけに想像力を広げて 互いを尊重する心を育てる人権講座

「やさしい人権講座」が8月24日、うちこ福祉館で開かれました。講師の武知悦子さんは「ふつうってなに？」をテーマに講演。「見えない人の心を想像する力は、絵本からも育まれる」と話し、絵本やカードゲームを使った楽しい内容で参加者の興味をかき立てます。最後に「想像力は互いの違いを認める力、自分や周りの人を守る力にもなる。柔らかい頭で考えてみて」と呼びかけました。

笹まつりに合わせて届いた夏の音色 心安らぐ「内子座サマーコンサート」

「内子座サマーコンサート in 楽屋」が8月6日に開かれました。初めに、内子町を拠点に活動するバンド・uchiko-noteが登場。外国語指導助手のパトリックさんとのコラボで会場を盛り上げます。続いて砥部町在住のシンガーソングライター・まっしーは、童謡『おぼろ月夜』や、ふるさとが題材の創作曲『あいのうた』などを披露。来場者は澄んだ歌声と心地よい演奏に聞き入りました。



まっしー（左）とパトリックさんがアンコールで共演

大空を舞った百畳凧が風を起こす 世界で一つの手作りうちわに大変身

「和紙うちわ作り体験」が8月11日、五十崎凧博物館で行われました。面の部分には、いかざき大凧合戦で揚げた百畳凧の和紙を再利用。思いがけない模様が楽しい「折り染め」、自由に紙を貼る「ちぎり絵」などで、色とりどりのうちわが完成しました。宮本紗嘉さん（天神小3年）は「折り染めがきれいにできてうれしい。家に飾って、暑いときに使いたい」と笑顔でした。



染料を垂らした水で模様を付ける「マーブリング」で制作

昔の薬屋について楽しく学ぶ 「れきみん」で道具体験・香り袋づくり

子ども向け講座「れきみんであそぼ」が8月21日、歴史民俗資料館で開かれました。今回のテーマは「昔の薬屋さん」で、参加者は大正時代の薬屋について学んだ後、香り袋作りに挑戦。乾燥したハーブを薬研で砕き、自分好みの香りに調合しました。京河美波さん（内子小5年）は、「昔の暮らしが面白く学べた。完成品は家族にも見せたい」と話しました。



明治から昭和にかけて実際に使われていた「薬研」で砕く

豊作を願い、たいまつを掲げる―― 受け継がれる夏の風物詩「虫送り」

五十崎地域で広く継承されている「虫送り」が、8月21日に行われました。この行事では、火を灯したたいまつを持って農作物に付いた害虫を追い払い、五穀豊穡を祈ります。柿原自治会では地元住民など約80人が参加。鐘や太鼓を鳴らしながら、田んぼ沿いや堤防を練り歩きました。日が暮れて辺りが暗くなる中、たいまつのはらは幻想的に浮かび上がっていました。



子どもたちも大勢参加。揺らめく炎に興味津々